

知っておきたいロープワーク

日本映画テレビ照明協会

Inter BEE 2016 11.16水 » 18金 幕張メッセ

◇鉄管結び

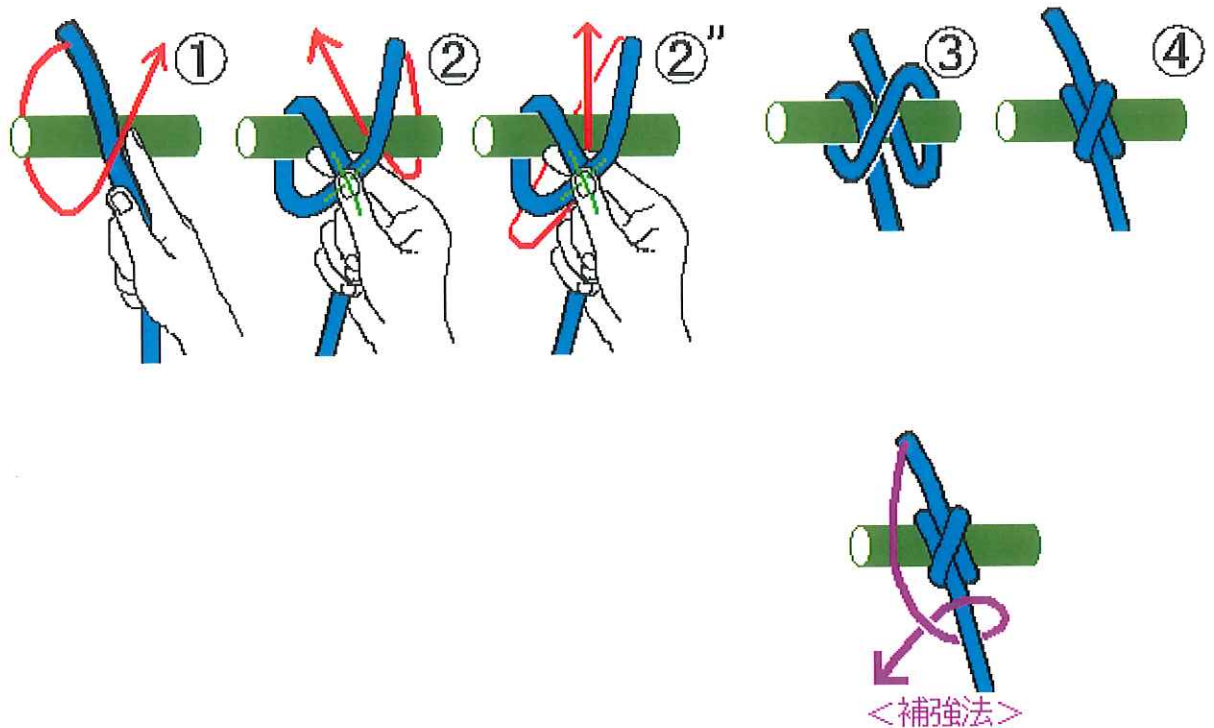
バトン（鉄管）やトラスなどに吊り物を吊ったり、バトンを引っ張ったりするときに使う一般的な結び方。

野の結び方は「引けば引くほど締まる」のが特徴です。

実際には、下図のように右手人差し指をロープに沿わせ、先端を目的物にまわし（下図①）、

下図②のように、クロスしたところをつまんでおき、もう一度目的物にまわします。

が、実際には左手でロープをまわすので、下図②'のような回し方になるはずで
す。あとは、クロスしたところへ、先端を差し込むと完成です。



こうすれば、しっかりところせます。

◇本結び

かた結びともいいます。

同じ太さのロープを結びます。

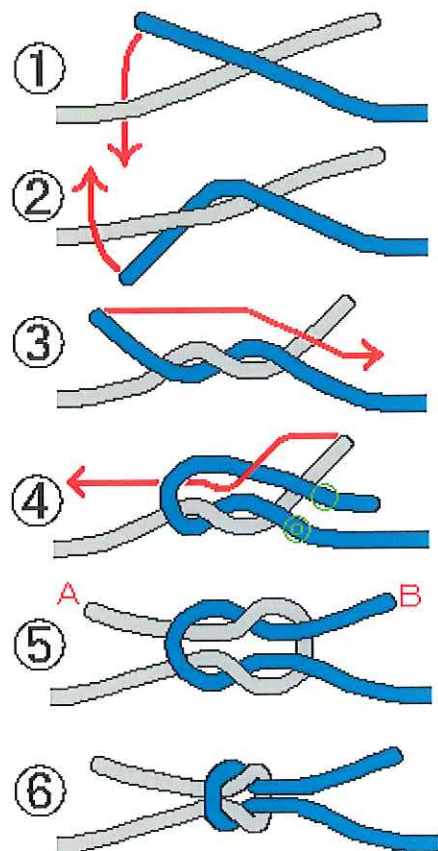
それぞれの太さが違う場合は「つぎ結び」を利用します。

下図の要領で結びます。

③で折り返した青いロープが④のように、グレーのロープの上で平行になるようにするのがポイントです。(○◎で示した部分)

ここで間違えて折り返した青いロープをグレーの下に通してしまうと、俗にいう「たて結び」となり、強度が低くなり、危険です。

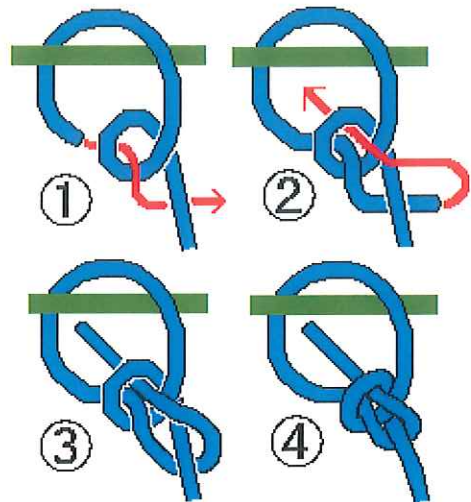
⑤で、両端AとBを引っ張れば完成です。



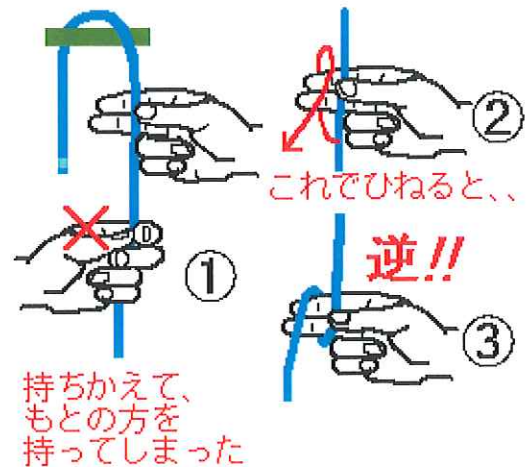
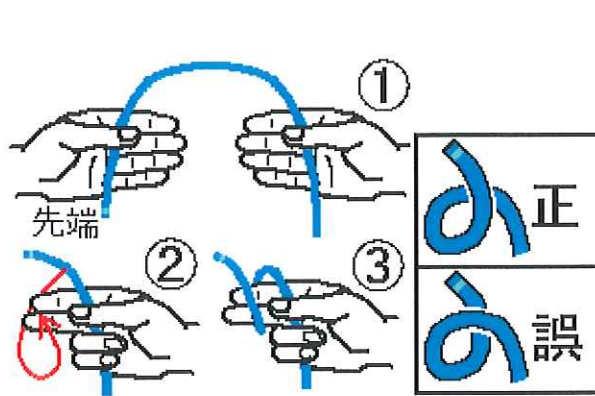
◇もやい結び

まず、輪をつくりましょう。

下図のように、両手でロープを持ってしまうと、誤った向きの輪はできません。左手で巻いてもよし、右手首を返すことによって、輪を作ることができます。



輪を作るのに失敗したケース 下図のように、目的物にロープを通してから、一度手を離して(!) 輪を作ると、輪が逆になります。当然、前述の手順では、もやい結びは出来ません。初心者が陥りやすいミスです。



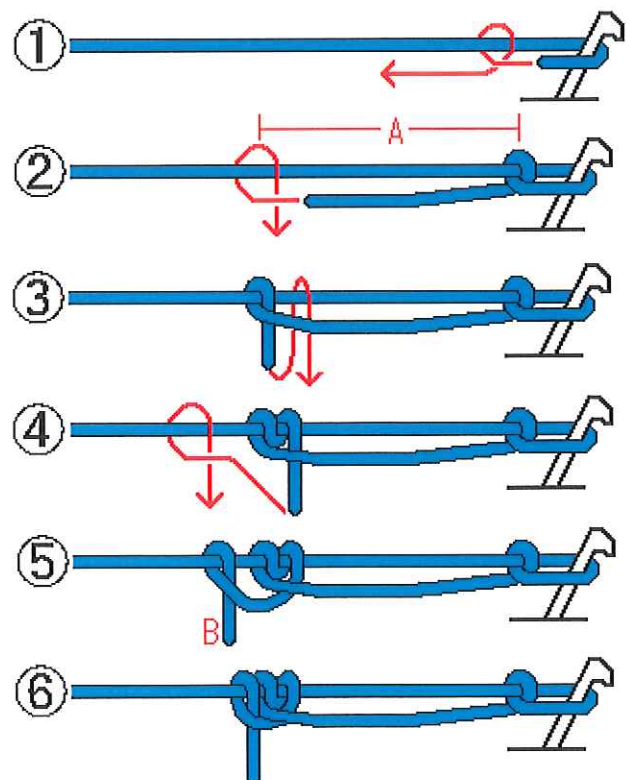
◇自在結び テンション（張り）をかける結び方

結び目を移動することにより、ロープのテンション（張り）を調節することが出来ます。また、自在金具がなかった頃は、この結びでテントの張り綱をむすんでいたのです、アウトドアマンの必修の結びだったそうです。

もちろん、ブルーシートなどにも！！

- ① ペグやハトメなどにロープをひとまきして、「ひと結び」をかけます。
- ② 30~40cm（Aで示した距離）はなして、もういちど、「ひと結び」をかけます。
- ③ そのまま、先端を元側のロープにひと巻きまわします。
- ④ 図のように、結びよりも元側の部分で、もういちど「ひと結び」をかけます。
- ⑤ あとは、結びの部分強く締めます。
- ⑥ 完成です。結びの部分移動することにより、ロープの張りを調節する事ができます。

「ひと結び」、**「ひと結び」**、一度まわして「ひと結び」、と覚えればよいと思います



◇トラックの荷物を縛る (トラッカーズヒッチ)

トラックの荷物を縛るときに使うしぼり方で、強いテンションを作る事が出来ます。

もちろん、イントレの上にスタンドを設置した時など安全対策には最適。

トラックの場合、目的物がフックですので、ロープの先端でなくても結ぶ方法があるのですが、基本であるロープ先端で結ぶ方法を紹介します。

- ① 図のように、ひねって輪をつくり、先端側で、図のようにロープを折り返します。折り返した一部（赤丸の部分）を輪に通します。輪に通すとき、赤矢印と逆の方向に通しても、結ばませんので注意してください。
- ② かるく輪を締めおきながら、先端を目的物にひとまわりさせます。このあと、テンションを掛けると、結び目と目的物が近くなることを考慮して、結び目と目的物は1mくらいあけておくといいでしょう。
- ③ ロープの先端を折り返した部分に通します。
- ④ 折り返した部分を基点にUターンした先端を強く引いてテンションを掛けます。テンションを掛けたまま目的物にひとまわりさせ、折り返した部分に通します。
- ⑤ もういちど、ここで先端を強く引いてテンションを掛けます。先端は、目的物にひとまわりさせた後、立木などに「巻き結び」や、「ふた結び」などで、先端を結んで完成です。テンションの掛ける（力を入れて引っ張る）方向は、③④のときの、赤矢印の方向です。

